

# 令和3年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

## 第2学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○字形が整わなかったり文字を丁寧に書いたりすることができていない。</li> <li>○学習した漢字や助詞を適切に作文や文章に書き表すことができていない。</li> <li>○文章を書くときに題材がなかなか思いつかない児童がいる。</li> <li>○話すこと・聞くことの学習に置いて、自信をもって話せなかったり内容がきちんと構成できていなかったりしている。</li> <li>○物語文を読むことの学習では、自分の考えの理由をうまく話せない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートやプリント等を確認し、繰り返し丁寧に書く指導をする。間違いは丁寧に直させる。</li> <li>○文章を書いた後に「既習の漢字を使えているか」「助詞が正しく使えているか」等のポイントを示し、見直しの指導をする。</li> <li>○題材選びの際に例示したり全体で共有したりする場を作る。日頃から題材になりそうな事柄を集める。</li> <li>○自信をもって発表できるように、様々な形態で練習する機会をつくる。</li> <li>○叙述をもとに考えられるように指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○字形のポイントをおさえ、丁寧に書く習慣をつけるようにする。</li> <li>○文章を書いた後に見直す視点を明確にしたり、「はじめ・中・おわり」の区切りで見直すなど、見直しの習慣をつけさせる。</li> <li>○自分だけでなく、友達と読み合っって見直す機会をつくる。</li> <li>○日記の課題にテーマを指定して書くなど、普段から作文の題材につながるように集めておく。</li> <li>○ペアやグループで練習する活動を取り入れる。</li> <li>○課題に対しての内容になっているかを確認するために、発表の仕方などを友達同士で見合う機会を設定する。</li> <li>○自分の考えの根拠となる語句を先に見つけさせたり、全体で叙述を確認してから考えさせたりするなど、単元や児童の実態に合わせた活動を考える。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題について自分なりに考え、発表することに課題がある。</li> <li>○計算の仕方を理解し計算を正しく行うことに個人差がある。</li> <li>○量の見当をつけたり、測定したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決の時間を確保し、個別に声かけを行う。</li> <li>○授業で計算の仕方をおさえ、宿題プリントやタブレットを用いて繰り返し計算練習を行わせる。</li> <li>○日常の事柄と関連させながら指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○式や言葉、図、グラフ等、多様な考えをもてるように指導する。児童同士で考えを発表し合ったり、他の児童の考えを自分の言葉で言い直したりさせる。</li> <li>○必要に応じて具体物や図を用いることで、数の表し方や計算の仕方を捉えさせる。基準にする量を明確にした指導を行う。</li> <li>○日頃から身の回りのものの量に着目させ、日常生活の中で量感を養わせる。実測を伴う活動を多く取り入れることで、量や時間を適切に表すことができるようにさせる。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍により身近な人々と関わる活動が不十分である。</li> <li>○意欲的に調べようとする児童が多いが、地域など大きな括りで特徴を捉えることが難しい。</li> <li>○様々な事柄に興味はあるが、経験が少ないため、理解や行動に結び付かない。</li> <li>○動植物の観察については、特徴に気付き、表現をすることに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○密を避けた指導の方法を工夫する。単元の指導計画をしっかりと行う。</li> <li>○自分の住んでいる地域について関心を深め、自分との関わりを考えさせる。</li> <li>○身に付けさせたいことを明確にし、児童と共に指導計画を作っていく。</li> <li>○タブレットで写真に撮るなど効果的にICT機器を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方に協力いただき、自分の身の回りで働く人や地域について興味をもたせる。</li> <li>○可能な限り、実際に足を運び、見たり感じたりさせ、愛着をもたせる。また、ICTを活用し、地域の様子などについて調べるようにする。</li> <li>○実際に見たり聞いたり、体験してみたりする活動を多く設ける。単元の導入を工夫し、児童が思いや願いをもって取り組めるようにする。</li> <li>○写真を拡大することで、注目させたいところに気付かせる。</li> </ul>

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しみながら歌ったりリズムをとったりしているが、音を正しく取れていなかったり、曲想に合わせて工夫して表現することには課題がある。</li> <li>○鍵盤ハーモニカに取り組む時間が少ないため、指使いや演奏が不十分な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伴奏のメロディや周りの歌声をよく聴いて歌えるように声掛けをしていく。</li> <li>○短い時間でも鍵盤ハーモニカを練習する時間を取り入れる。実物投影機で教師の指使いを見せたり、友達と見合い、聞き合ったりする活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○曲想について気付いたことを全体で共有し、工夫の視点をもたせる。歌う際や聴き合う際に、「強弱」「速さ」など、工夫の視点を示す。</li> <li>○できるだけ鍵盤ハーモニカを練習する時間を確保する。教師の範奏を見せたり友達と見合ったり、聞き合ったりする活動を取り入れて、確認できるようにする。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道具があまりうまく使えない。</li> <li>○作品のイメージが固定化している。</li> <li>○自信がなく、作品が小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵の具を水でとく方法を具体的に指導する。</li> <li>○はさみ、カッター、のりなど手先使う指導を丁寧にする。</li> <li>○児童の想像が大きく広がるような指導をする。</li> <li>○自分の思いを表現できるような指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な濃さを示すなど理解しやすい例えを用いて濃度の指示を行う。</li> <li>○手先の作業を図解したり実演したりして理解を深めると共に、補助を行い方などの工夫をする。</li> <li>○例を示すなどして、イメージの多様化を図る。</li> <li>○どんな表現でも受け入れられる雰囲気を作り、大きく表現させる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な運動感覚が育っていない児童が多い。また、運動が得意な児童も一つの動きに特化しており、多領域にわたって基本的な運動感覚を身に付けている児童は少ない。</li> <li>○必要な動きができていないかどうか、仲間の動きを見たり、お互いに動きを見合ったり、声をかけたりすることに課題がある。</li> <li>○自分に合っためあてを立て、めあてに合った場を選択し、取り組むことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びを通して、様々な運動感覚を身に付けさせる。</li> <li>○児童が遊びながら、必要な感覚を身に付けることができるよう、単元の指導計画を工夫する。</li> <li>○教師による賞賛、指示、助言、励ましを意図的に行っていく、そこから児童同士の学び合いができるようにする。</li> <li>○学習カード等を活用し、自分に合っためあてを立てることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場をたくさん作り、それぞれの場で遊びを通して運動感覚が身に付くようにする。また今後中学年の技能につながる動きをしている児童を称賛し、全体に広め、真似できるようにする。</li> <li>○単元の前半は、それぞれの場で動きや遊びを工夫させる。後半は、児童から出たよい動きを取り入れ、より技につながる動きに取り組みさせる。</li> <li>○技能ポイントの分析を通して、課題に応じた声かけをあらかじめ準備しておく。</li> <li>○動きに合ったオノマトペを作成する。友達が活動する際に、オノマトペを言うことで「見合う」という意識を高める。</li> <li>○学習カードに取り組む動きやポイントを記し、めあてを選択したりさせなど、スモールステップでめあてをもつことができるようにする。</li> </ul>